



キッズらしさを大事にしなが  
ら  
子供たちの「夢」を  
広げたい、つなぎたい

## Chiba Hisae

2002年に大東町で行われたサキソフォビアのライブで岡さんと出会い、ジャズの魅力にはまりました。「自分が好きな音楽を子供たちにも経験してほしい」という思いで、音楽を保育に取り入れてきました。そんな矢先、岡さんから「子供たちに本物の音楽を聴かせたい」と提案され、曾慶保育園での演奏会が実現。これがターニングポイントになりました。

夢は膨らみました。当時、保育園で取り組んでいたオペレッタ(音楽劇)を今度は、サキソフォビアの皆さんに見せたいと思いました。再び、サキソフォビアを曾慶保育園に招きました。メンバーは、子供たちの演じる姿に見入っていました。「見る・聴く」から「見せる・演じる」へ転換した子供たちも、それぞれ何かに目覚めたようです。

千葉久恵(ちば・ひさえ)  
1974年大東町生まれ。保育士。02年から08年3月まで曾慶保育園に勤務。音楽を取り入れた保育がドリームキッズ誕生の原点。中学時代は吹奏楽部、高校時代は音楽部で活躍。所属するアマチュアバンドではボーカルを務めるなど、幅広い音楽活動を展開。大東町摺沢在住、37歳

子供たちと一緒に過ごす時間の中で、「音楽を通じて自分を表現する→表現することで自信を持つ→自信を持つことで自分を好きになる」ことを教えたいと思いました。そんな思いに賛同した有志と「いちのせきキッズプロジェクト」を立ち上げました。

09年2月に第1回コンサートを開きました。10年2月には「サキソフォビア&ドリームキッズ」名義のCDが全国販売されました。キッズの魅力は、一人一人の個性がそのまま表現された「らしさ」です。

ここには、子供たちの夢、父母の夢、スタッフの夢、私の夢など、たくさん夢が詰まっています。これがドリームキッズの名の由来です。夢は広がります。夢はつながります。これからも、子供たちと一緒に夢を実現していきたいです。



## 「和」を育みながら「輪」を広げる曾慶的夢の育て方

「土の中から空に向かって顔を出す大根の生命力は、キッズの元気と輝きのようだった」と振り返る。

個を育む「和」と人をつなぐ「輪」を広げていく「曾慶的夢の育て方」。キッズを応援する人たちが増えている。

「土の中から空に向かって顔を出す大根の生命力は、キッズの元気と輝きのようだった」と振り返る。

「和」を育む「和」と人をつなぐ「輪」を広げていく「曾慶的夢の育て方」。キッズを応援する人たちが増えている。

「土の中から空に向かって顔を出す大根の生命力は、キッズの元気と輝きのようだった」と振り返る。

「和」を育む「和」と人をつなぐ「輪」を広げていく「曾慶的夢の育て方」。キッズを応援する人たちが増えている。



## Yoshino Takashi

ドリームキッズの歌を初めて聴いたとき、「これはすごい」と心を打たれました。キッズの特徴は自然体。一人一人が自分らしく、ありのままの姿や気持ちで歌っているから、心に響くのでしょうか。伸び伸び歌うステージからは、元気や楽しさが伝わってきます。気持ちが前面に出て、下からグワーッとわき上がってくる感じは、土の中から地上に顔を出す大根の成長に似ています。これからも、個を大事にするオンリーワンの歌を聴かせてください。

吉野崇(よしの・たかし)  
1975年平泉町生まれ。菓子職人、運動療法士。イリノイ州立大学で人間学を学ぶ。帰国後は大正4年創業の老舗菓子店「吉野屋」の4代目として菓子作りに関心。平泉町在住、36歳

合唱は、複数の人がそれぞれ歌う音楽スタイル。整然とした入退場から息のあったコーラスまで「そろえる」がセオリーだ。ところが、ドリームキッズの持ち味は「自由さ」。今、できる最高のパフォーマンスで自分自身を表現するステージこそ、「キッズらしさ」なのである。それぞれが存分に「個」を発揮するあまり、時に足並みがそろわないことも。だが、上手下手は気にならない。体格、歌唱力や演技力がでこぼこでも、心は一つだからだ。

指導する保育士の千葉久恵さん。モットーは、個性を伸ばす育て方。

「子供たちは十人十色。能力は無敵。舞台では、それぞれが自分らしさを発揮すれば100点」と言い切る。う褒められるとうれしい。う

「和」を育む「和」と人をつなぐ「輪」を広げていく「曾慶的夢の育て方」。キッズを応援する人たちが増えている。

「土の中から空に向かって顔を出す大根の生命力は、キッズの元気と輝きのようだった」と振り返る。

「和」を育む「和」と人をつなぐ「輪」を広げていく「曾慶的夢の育て方」。キッズを応援する人たちが増えている。



吉野さんのCD「ソングス」。やさしい歌声とウクレレの音色に心底癒やされる。ラストを飾る「大根コン」はドリームキッズが共演。吉野さんの妹が育てる大根の生命力に感動して作った

子供たちは一人一人みんな違う  
大事なことは上手下手より自分らしさ  
キッズの潜在能力を引き出した曾慶方式とは?

# 十人十色



④サキソフォビア&ドリームキッズ名義で2010年1月に発売されたCD「世界中の子どもたちが」  
⑤千厩町奥玉の「角蔵ホール」で行われたレコーディングは一発録り。プロミュージシャンとキッズがガチンコ勝負で収録した。まっすぐで自由な歌声が響く珠玉の一枚だ



楽しいから楽しくなる。楽しいから夢中で頑張る。だからどんどん伸びる。

キッズと一緒に夢に挑む父母たちは、その名も「ドリームペアレンツ」。スタッフとして舞台裏を奔走し、自前でコンサートを創り上げるスーパーペアレンツだ。

そんな「ドリームな親子」を曾慶地区をはじめとする地域の人たちが、がっちりサポートする。第1回からコンサートに関わる千厩町奥玉の自営業及川一郎さんは「キッズの一生懸命な姿を見てみると、手伝わすにはい

## Saxophobia



井上"JUJU"博之、緑川英徳、岡淳、竹内直

ファンタジックコンサートは、プロとアマの単なるコラボレーションではありません。私たちとキッズの交流は7年以上。時間をかけて築いてきた強い絆で結ばれています。たくさんアーティストと共演しますが、キッズと一緒にステージが一番緊張します。純真無垢なキッズは、何をしても真剣。透明感ある歌声には無条件に感動します。演奏中、手を止めて聴きたくなるほどです。ドリームキッズの個性を大事にする活動は、サキソフォビアの信念とも共通しています。近年、人と人とのつながりが希薄になっているといわれています。キッズの活動は、親子の絆、仲間とのつながり、地域のコミュニティーなどを強くしていると思います。素晴らしい活動です。

Saxophobia(サキソフォビア)  
98年に結成されたジャズカルテット。サクソスのほかフルート、篠笛、バスクラリネットなどを演奏し、多彩なサウンドで注目を集める。楽曲は、ジャズの隠れた名曲、ポップス、民謡、オリジナルと幅広い

## Fanta



⑥から及川和也さん(ドラム)、小岩哲也さん(ベース)、千葉恵治さん(ギター)、古川大さん(キーボード)

第2回コンサートから参加しています。回を重ねるたびに、子供たちの成長を見たり、感じたりできるので楽しみです。子供たちの舞台度胸にはいつも驚かされます。堂々としたあの輝きはキッズならでは。子供たちを後ろから支える私たちバンドも感動しているんですよ。(キーボードの古川さん)

Fanta(ファンタ)  
ファンタジックコンサートをサポートするために結成された。子供たちと音楽をこよなく愛する4人組

## Oikawa Ichiro



第1回から関わっています。毎回、レベルアップしています。最初の頃に比べて声もずいぶん出るようになりました。のみ込みの早さには驚かされます。キッズの持ち味は「元気」。元気がなったり、癒やされたり、勇気をもらったりします。父母や地域の皆さんなど、関わっている人たちの一体感もいい。みんなで作っていることを実感できます。これからも音響で協力したいし、応援していきたいです。

及川一郎(おいかわ・いちろう)  
商店経営。蔵を改造した「角蔵ホール」を拠点に、各種イベントの企画や若手ミュージシャンの育成に尽力。千厩町奥玉在住、54歳